



ゼオライトが納入した水質浄化装置（福岡市の福岡クリーンエナジー東部工場）

## ゼオライト

# ごみ水分の浄化装置

## 純水にる過再利用 焼却施設へ拡販

水処理プラントメーカーのゼオライト（福岡市、河村勝美社長）は、ごみに含まれる水分を再利用できるようにする水質浄化装置を開発した。ごみ焼却施設で発生する水分を回収し、逆浸透膜を使って純水にする。すでに福岡市内の施設へ納入し、20%の水道水使用量の削減につながった。節水効果をメリットに九州を中心とするごみ焼却施設へ拡販する。

## 水道水20%削減も

福岡市と九州電力の共同出資会社、福岡クリーンエナジー（福岡市）が運営する東部工場（同）に納入した。燃やせるごみには重量ベースで30、50%の水分が含まれる。ごみが燃えて出るガスに混入した水分を回収し、水質浄化装置で純水にする。純水はポンプを動か

すときに使う水道水の一部を代替する。水質浄化装置では海水淡水化などに使う逆浸透膜で不純物を取り除く。水分には灰の微粒子が残

っているため、まず逆浸透膜より目の粗い膜でろ過して逆浸透膜の目詰まりを防ぐ。目の粗い膜は30分に1回、自動洗浄してメンテナンスの手間を抑える。

東部工場に納入した水質浄化装置の純水生産能力は1日50ト。東部工場は水道水を1日250ト使っており、年間約1万7000トの節水につながる。水道水の使用量を

減らしたい福岡クリーンエナジーと共同研究を進め、昨秋に稼働させた。福岡クリーンエナジーによると、国内のごみ焼却施設では初めての取り組みという。

現在も順調に稼働しているため拡販する。「水道料金が高く設置メリットの見込める地域にあるごみ焼却施設を対象に、年間1件ずつ納入する」（河村恭輔会長）目標を

掲げる。1日50トの純水生産能力を持つ逆浸透膜設備の価格は約1000万円で、ここに設置費用などが加わる。

ゼオライトは逆浸透膜を使った地下水や排水の水質浄化装置を生産し、九州を中心に全国のホテルや病院などに納入している。2009年7月期の売上高は約18億円。ごみ焼却施設への販路を開拓し、事業を拡大する。